

「ヒザや腰の痛みで通院もつらくて…」

「車いすで病院に連れていくのが大変」

「もの忘れがひどくて、どうしたらいいの？」

このような方は、ぜひ当院にご相談ください。

雑司が谷に根を張って約100年の当院が、
みなさまが健康に、
安心して暮らしていけるよう、
お手伝いさせていただきます。

ご自身のことでなくても、
大切な方の心配事や、
介護のお悩みなども、
お気軽にご相談ください。

ケアマネージャーさんや、
訪問看護師さん、
高齢者総合相談センターとも
密接に連携していますので、
必ずお役に立てると思います。

24時間対応

近隣のドクターや看護師と
連携して24時間体制を
実現しています。

鵜山医院の

訪問診療



お申込み・ご相談は…

03-3982-1331

鶉山医院

看護師 田中、または 医師 大塚まで、
ご遠慮なくご相談ください。

- ・土曜日の午後と、木・日曜日・祝日は休診日です。
- ・訪問診療開始後は 24 時間対応となります。

うずらやま医院スタッフより。

通院が困難になってきたら、
健康のこと、介護のこと、これからのこと、
何でもご相談ください。

患者さまが、
いつもの自宅で、
好きな物に囲まれたお部屋で、
ご家族さまと一緒に。

心穏やかに生活できるように、
患者さま・ご家族さまに寄り添う
お手伝いをいたします。





地域医療にかける想い



鵜山医院は、雑司が谷鬼子母神の前で開業する医院です。

大正末期に開設され、以来この地域で診療を続けて参りました。
私は3代目ということになります。

町医者ですので現在は専門は持たず（元は内科医です）、みなさまのかかりつけ医（家庭医）として、赤ちゃんからお年寄りまで、あるいは男性も女性も、幅広く患者さまを拝見し、丁寧な診療をするよう心がけています。

そして、いつでも誰にでも分かりやすく説明し、合理的な治療を行うことをモットーとしています。

当院では、何かの理由で通院が難しくなっても「これまでと同じクリニックで、いつもの先生に診てもらいたい」というご希望にお応えできるよう、訪問診療（往診）を行っています。

もしみなさまが通院が大変で困っていたり、
万が一体調が悪くなったときにどうしよう、
といったご不安があるようでしたら、ご遠慮なく
ご相談下さい。

できる限りのお手伝いをさせていただきます。

鵜山医院 院長 大塚大輔



もくじ

 訪問診療とは？	P. 3
 私も訪問診療してもらえるの？	P. 3
 こんな時にも相談して下さいね	P. 4
 訪問診療を受けるには？	P. 6
 訪問診療の曜日と時間は？	P. 6
 地域みんなで協力して支えます	P. 7
 訪問診療では何ができるの？	P. 8
 お薬の受け取りはどうするの？	P. 9
 急に具合が悪くなったら困る…	P. 10
 お休みの日も連絡がとれるの？	P. 10
 もし入院が必要になったら？	P. 11
 費用について	P. 13
 コラム：終の棲家、とは云うものの…	P. 14
 医師会のサポートでさらに安心に！	P. 16
 院長紹介	P. 17

訪問診療とは？

「訪問診療」ではご自宅に定期的に訪問して診療します。

通常みなさまが医療機関を利用するときには、たとえば月 1 回定期的に、あるいはカゼなどをひいた時に臨時で、医療機関を訪れて診察を受けます。

「訪問診療」では通院が難しい方のために、月 1～2 回訪問する日を予定し、医師がご自宅を訪れて診察するスタイルとなります。定期的な訪問のほか、体調をくずした場合などに 24 時間 365 日電話を受け付け、必要に応じて臨時に往診も致します。



いつもは通院している方が発熱やケガなどで医院まで来られないときにも「往診」しますが、これは一時的なもので訪問診療とは異なります。

私も訪問診療してもらえるの？

何かの理由で**通院が困難である方**が対象となります。

たとえば膝や腰の痛みで病院まで歩くのがつらい方、認知症があり、ご家族のつきそいなしでは毎月定期的に通院ができない方、外来で長時間待つのが困難な方は、十分対象になるでしょう。

その他、病院から退院した直後など、しばらく通院が困難と思われるときも、自力で通院が可能になるまで一時的に訪問診療を行うこともあります。

入院生活がつらい方や入院生活を続けたくても続けられない方もご相談ください。



こんな時にも相談して下さいね

通院に不安があって困っている。

「膝や腰が**痛くて**通うのが大変だわ。それによく転ぶし…」

「退院したばかりで**体力にも自信がなく**通院をどうしたらいいのかしら？」

「歩いて通院はできないけれど、最近**はタクシーがつかまらないの**」

「大きな病院で**何時間も待つ**のが疲れて…」

「**大事な書類や・お金の管理**が出来なくなってきていて不安」

「雨や雪などの**悪天候だと通院できないのよ**」

「**酸素吸入**のボンベの機械が重くて…」



両親（父または母）の通院で困っている。

「病院に行くのを**嫌がって連れて行かない**」

「毎回家族が**車椅子で病院に連れて行く**のが難しいわ。平日は仕事もあるし」

「**もの忘れ**が進んで、通院日を忘れてしまうようだ」

「**お薬がきちんと飲んでない**みたい…。
でも、**言うと怒るし**…」

「おかあさん、ひとり暮らしだけど心配だな…」



両親（父または母）の言動・行動に不安を感じる。

「そこに**いないはずの子供や動物が見える**と言うんです」

「**入浴**してくれません。

あまり**洗濯もしない**で同じ服ばかり着ているし」

「突然叫んだり、意味不明なことを言うようになった」

「冷蔵庫を見ると、**同じ物ばかり**たくさんある…」

「飲み込みやすく、食べやすいように工夫して作っているのに食べてくれない」



「**お金が無くなった！ 盗まれた！**なんて私をにらむんです」

「**夜中に外出をしようとする**のでカギを増やしました」

「汚れた紙おむつや尿取りパッドを隠すので困る」

「台所やタバコの**火の不始末**が怖くて…」

「話している途中などで怒りだしてしまう。
優しいお父さんだったのに…」



患者様、ご家族様、何かお困りのことがあれば、先生や看護師、スタッフにお気軽にご相談ください。一人で悩まないでくださいね。

訪問診療を受けるには？

まずは当院にご相談ください。

当院に通院中の患者さまであれば、状況とご希望を聞き取りの上、初回訪問日を決めて、訪問診療を開始します。

大きな病院や他院に通院中の方の場合、同様に訪問の段取りを進めつつ、現在おかけの医療機関に当方から「診療情報提供書」を作って頂くよう依頼し、スムーズな連携を図れるようにします。



当院から車でおよそ 15 分以内のエリアの方が対象です。

訪問診療の曜日と時間は？

原則として月 2 回、お約束した日に伺います。

月・火・水・金曜日の 14 時～16 時くらいの時間になります。

訪問の 10 分～20 分前くらいにご連絡してからお伺いします。



体調によっては医師の判断により
月 1 回とすることもあります。



逆に、褥瘡（床ずれ）の処置が必要であつたり、お具合が悪いときには、より頻回に訪問を予定することもあります。



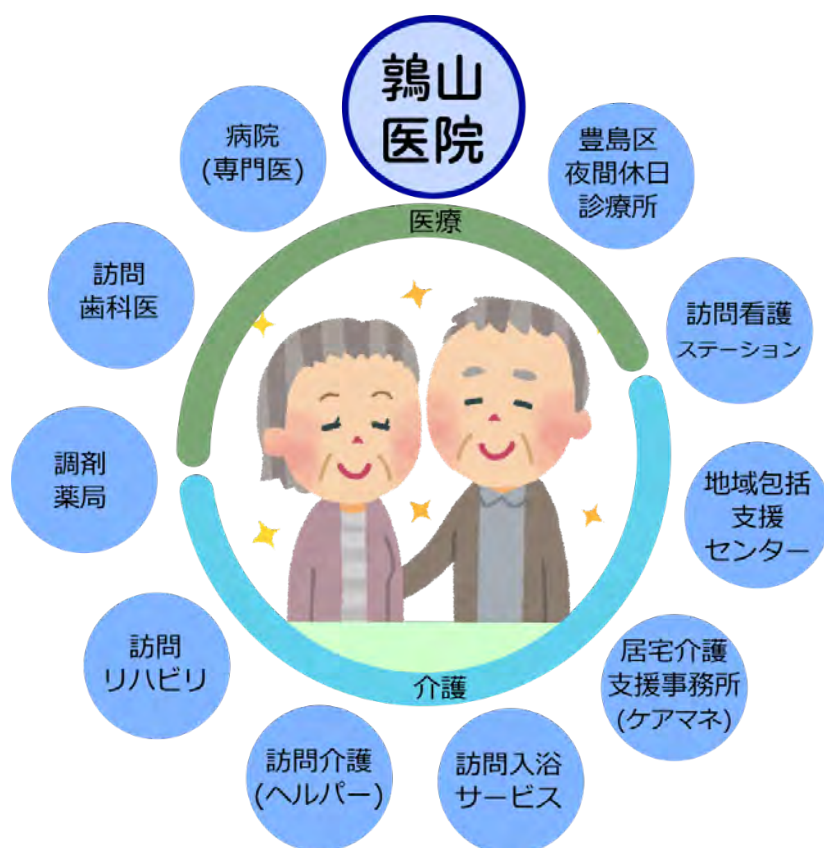
地域みんなで協力して支えます

地域の多くの頼れる専門家が、当院のパートナーです。

ご加齢により、あるいは病気により自宅で療養される方は、ご家族以外にも様々な人や、施設の助けを必要とすることがあります。

介護保険を利用したサービスを統括する「ケアマネージャー」さん
家事の支援やオムツ交換・入浴の手助けをする「ヘルパー」さん
健康チェックや様々な処置を行う「訪問看護師」さん
自宅でのリハビリを担当する「訪問リハ」さん…

これら様々な職種と、緊密に連携してこそ、在宅療養はうまくいきます。



スムーズな連携のため、他職種間だけでなくご家族とも連絡をとり合います。電話やメールのほか、連携ツール「MCS」を使い、緊密に情報共有しています。

訪問診療では何ができるの？

基本的には医院での診察・検査・治療とほとんど違いません。

太字の項目は訪問診療ならではの内容です。

毎月の定期的な 診察	緊急時の往診 (365 日)	電話・メール での相談 (随時)	お薬の処方 調剤薬局に 宅配を依頼
注射・点滴・ インスリンの 管理	血液検査 尿検査	心電図 超音波	病院との連携 入退院の調整・ 相談
介護保険認定 書類の作成	訪問看護師への 指示・連携	各種予防接種	骨粗鬆症治療 内服・注射
褥瘡の治療 資材の管理	尿道カテーテル の設置・管理	胃瘻・経鼻胃管 の挿入・管理	在宅酸素の 導入・管理
末期がんの ターミナルケア	CT・MRI 等の 検査依頼	リハビリ担当者 への指示・連携	自宅環境の チェック 環境整備の助言



基本的に医院での診療と変わりませんが、胃カメラやレントゲンはできません。この場合は医院に来て頂いての検査となります。



お薬の受け取りはどうするの？

訪問時にお渡しした処方箋を調剤薬局にお持ち込みください。

訪問診療でも、外来診療と同じように処方箋をお渡ししますので、お近くのかかりつけ薬局に処方箋をお持ち込みください。

ご自身で、またはご同居の方が薬局に行くことが難しい場合には、近隣の薬局に宅配を依頼することもできます。（介護保険を利用します）

【当院独自】緊急時に備えた「ピンクの取っ手の救急箱」

これは**当院独自の取り組み**ですが、急な体調不良にもすばやく対応するため、さまざまなお薬をあらかじめ救急箱の中に用意して患者さまのご自宅にあずけています。



私たちはこれを「**ピンクの取っ手の救急箱**」と呼んでいます。（見た目そのまんまですね！）

夜間など医師にお知らせ頂いた時に、たとえば頭痛や力ゼ症状など軽い症状のときには、取り急ぎこれらのお薬を開始していただき臨時の往診までの繋ぎとしています。また調剤薬局がお休みのときも重宝します。



「ピンクの取っ手の救急箱」のきまりごと

この箱の中のお薬は、医師の指示があったときだけ内服します。ご自身やご家族の判断だけで箱を開けてはいけません。

救急箱は鶏山医院がお預けしている形です。いざ使うまではお代金を頂いておりません。

お薬を使った時は、つぎの訪問診療の時に使った分だけのお薬を処方しますので、この箱の中に返しておきましょう。

急に具合が悪くなったら困る…

基本はあらかじめ決めた日の訪問ですが、体調に応じて臨時に往診もします。



お約束した日にご自宅を訪問して、診察を行うのが基本ですが、体調不良（たとえば発熱やお怪我など）があればまずご連絡下さい。必要がある場合は臨時に往診します。なにか変わったことがあればまずご連絡下さい。（24 時間連絡可能です）

お休みの日も連絡がとれるの？

複数の連絡先を用意しており、24 時間、365 日の電話対応が可能です。

体調が変化したとき、困ったとき、不安な時はまずはお電話下さい。たとえば、、、

- ・ 熱が出た。
- ・ 薬を飲み忘れてしまった。
- ・ カゼを引いた。
- ・ 転んで腰が痛くなった。
- ・ 便秘・下痢。
- ・ 皮膚に発疹が出た。



医院スタッフ、もしくは休診日などは医師が直接お電話で対応します。電話のほか、E-mail、LINE、MCS（医療・介護用の SNS）などでもご連絡を受け付けています。



お願い：緊急時は「電話」でご連絡をお願いします。

もし入院が必要になったら？

基本的には医師が病院を探します。入院後も治療担当医と連携します。

ご体調が悪化し、いちど入院して治療をした方がよいときには、医師から入院のご相談をします。ご本人さま・ご家族さまの同意が得られた場合、医師が病院を選定、交渉し、入院の段取りをつけます。

ただし、救命には時間との勝負であるような状態が疑われた場合には、直ちに救急隊を要請し高度救急医療機関に搬送することもあります。

【当院独自】緊急時の備え「緊急時用診療情報提供書」。



訪問診療をおこなっている患者様には、何回かの診察を通じて準備ができた段階で、万が一に備えての紹介状をあらかじめ作成し、患者さまにお渡ししています。

緊急でなくとも他の専門医（たとえば眼科や、歯科など）に受診する時にも、この紹介状を用いて先方と緊密な連携をとっています。

病院までの移動手段について。

緊急の場合や、移動中にも酸素投与を要する場合には、救急隊を要請することがあります。緊急でなければ介護タクシーや民間救急を依頼します（介護保険を利用する場合にはケアマネージャーさんに依頼します）。

自家用車での移動も病状的に無理がない限りもちろん OK です。



* 主な連携先（病院）

以下、敬称略

ご希望するあらゆる医療機関に紹介することができます。
実績として多いのは……

- ・ 国立国際医療研究センター病院
- ・ 都立大塚病院
- ・ 日大板橋病院 ……など



* 主な連携先（クリニック）

整形外科：清水クリニック、目白整形外科内科、西早稲田整形外科
精神科（認知症）：目白 MM クリニック
歯科：あぜりあ歯科

* 主な連携先（介護支援事業所、ケアマネージャーさん）

ふくろうの杜高齢者総合センター（ふくろうの杜介護保険サービス）
やすら木、ケアリッチ

* 主な連携先（訪問看護ステーション）

南池袋訪問看護ステーション
LE 訪問看護ステーション
ベストリハ高田馬場



* 主な提携先（調剤薬局）

くま薬局、うずらやま薬局、
マロン薬局、いろり薬局



病院・クリニックに限らず、訪看ステーション、デイサービス、
通所・在宅リハビリ施設、その他あらゆる施設と連携は可能です。
ときには美容室、マッサージ師などとも連携します。

費用について

通院しているときと同様に医療保険で診察します。

通院の時と同じで**医療保険**の負担割合や年齢、検査や処置の有無、患者さまの状態によって変わります。1割負担の方に月2回訪問診療を行った場合の1ヵ月分のご負担は7000円～9000円程度です。



その他にかかる費用は？

次のように検査、臨時の往診、多職種との連携を行った時にはそれぞれ費用がかかります。（詳細はお尋ね下さい）

- ・薬局での調剤に関わる費用
- ・検査や処置、酸素吸入の使用などを行う場合
- ・急変時の電話対応や臨時の往診などで対応した場合
- ・居宅療養管理指導（ケアマネージャーとの連携による費用で月に600円程度）
- ・介護予防居宅管理指導（サービス担当者との連携による費用で月に600円程度）

往診時の交通費は？

定期の訪問診療時の交通費は当院で負担します。

めったにないことですが、例えば真夜中にタクシーを利用して緊急往診した場合などは交通費をご負担頂く事もあります。



お支払いは？

月まとめで計算してご請求します。お支払いはご指定の口座より引き落としさせていただきます。（引き落とし手数料は当院負担です。）

コラム：つい すみか 終の棲家、とは云うものの…。

息を引き取る時、私はどこでお迎えを待つことになるのでしょうか。

もし理想を述べるのなら、いつものイスの上で白猫をヒザに抱っこしながらポックリ、とか、家内や孫たちをウンザリさせるほど長生きして、でも最期は彼らに囲まれながら十分に年老いて、最期のさいご、息を引き取った時に「やっと逝ったか…！」なんて笑い半分・涙半分で見送られる、なんて最高ですね。

＊

私も、あなたも。生きているもの全てがそうであるように、やがて息を引き取る日が来るでしょう。できるだけ遠ざけたい未来ではありますが、それまでをどう過ごすかは、とても大事なことで、そしてその考え方はひとそれぞれです。

私は、みなさまがそれまで健やかに、楽しく、悔いのない日々を過ごしていただければと思い、診療をしています。

＊

かつては自宅の畳の上で最期の時を迎えるのがあたりまえでした。

やがて世の中が変わり、特に戦後に核家族化が進んでからは病院で最期を迎える方が多くなりました。

しかし平成の中頃からは価値観の多様化のせいでしょうか、少しずつ昔のように、慣れ親しんだご自宅で、ご家族と共に過ごしながらか最期を迎える方も増えてきています。

「ご自宅」とは、当たり前ですが、誰にとっても最もくつろげる場所です。きっと本当はそこにずっと居られるのが一番幸せなんではないでしょうか。

でも、体の自由がきかなくなってくると、どうしても生活に人の助けが必要になります。そうしたら家族に負担をかけたくないし…とためらう方もおられるかも知れません。あるいは、看護師さんや、先生が常時待機している病院じゃないと不安に思われるかも知れません。

*

このような患者さまの期待に応え、ご不安を解消するために、当院だけでなく他の多くの方々の協力のもと、できるだけ健やかに、自由にご自宅で過ごして頂くために様々な取り組みをしています。

患者さまご本人、周りで支えているご家族さまはもちろんのこと、近隣の訪問看護ステーション、ケアマネージャーさん・ヘルパーさん、薬剤師さん、場合によっては短期入所施設やショートステイ施設などと協力し、できる限りのことをしたいと思っています。ぜひお手伝いをさせて下さい。

*

なかなか自分一人で決められることはありませんし、その時になってみなければ分からないし…というご不安もあるでしょう。

他の人にもなかなか相談しづらいお話です。相手も選ぶ必要があるでしょう。

もしよければ、私や、当院のスタッフにお話ししてみてください。

逆に、先生にもの申す！とご意見を聞かせて下さる方も大歓迎です。ぜひいろいろお話をさせて下さい。



医師会のサポートでさらに安心に！

2025 年春、豊島区医師会では在宅療養を支えるさらに安心な取り組みが始まりました。

夜間や休日などで診療所に電話が繋がらないときに、当番看護師が対応し、必要に応じて当番医に相談して指示を仰いだり、場合によっては臨時に往診してくれる仕組みです。

鵜山医院の訪問診療では、**何かあったらまず先生に連絡する！**…のが原則ですが、まれに電話に出られないこともありますし、遠方にいるなどして対応が遅くなることもあります。

万が一のバックアップとして、患者さんにとっても、休日や夜間に介入している介護・医療スタッフにとっても、心強い味方になってくれます。※ご利用には別途申し込みが必要です。

豊島区休日夜間診療所

非常対応用の電話では、支援 A I を利用した緊急連絡内容の文章化（直接電話で話すこともできます）や、ネットワークを利用した主治医への情報共有など、最新技術も用いられています。





大塚 大輔

Daisuke Otsuka

プロフィール

1973 年東京生まれ、
杏林大学医学部卒。

2004 年 2 月 体調を崩した前院長
に代わり、鶉山医院で診療を開始。
「ちょっと 1 か月ぐらい手伝って」と
言われ代診で入ったつもりが、いつのま
にか 20 年も経ってしまいました。

もともとは消化器内科医ですが、現在
は特に専門を定めず、老若男女を問
わずに全身を診られる「町医者」である
ことを目指しています。

2008 年ごろからは往診・訪問診療
にも力を入れており、午後の時間は患
者さんのご自宅を回って診療していま
す。

趣味：

DIY・料理・ハンドクラフト。

こどもの頃から、ものごとの構造を調べたり、仕組みを理解したりすること
が好きでした。

祖父母の建てた築 50 年以上の家に住んでいますが、外壁塗装を外
注したこと以外は、床板の張り替え、屋根裏部屋の作成、床下収納造
設など全て家族と自分達の手で行ってきたのが、ちょっとした自慢です。

バイク乗りでもあります。ツーリングに行けなくても、修理とメンテをしてい
るだけでニコニコしています。

要するに、自分の手で何かを作ったり、直したり治したりするのが好きな
のです。

公益活動：

本業では豊島区医師会に所属。豊島区と協力し、健診・予防接種・
公衆衛生分野などで行政の施策に貢献しています。

私的には東京都の西の果て、檜原村の環境保全活動に熱心に取り組
んでいます。

カエル：

コロナ禍でステイホームしていたころから、なぜか
カエルの置物が大好きになってしまいました。

診察室にはさまざまな愛らしいカエルが並んでいます。



2025年05月 発行



うずらやまかい

うずらやま いいん

医療法人社団鵜山会

鵜山医院

豊島区雑司が谷3 - 8 - 10 代表) 03 - 3982 - 1331